

みやぎの

3月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.205 2024.3

紹介内容 (2/1 ~ 2/29)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 仙台農改：黒川地域で地域計画策定のための意見交換会が開催されました
 - 仙台農改：令和5年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
 - 美里農改：大崎地域第1号！株式会社こうだいらプランテが「みどり認定」を受けました
 - 気仙沼農改：JA 青色申告会 PC 簿記研修会が開催されました
 - 石巻農改：農業法人の事業承継研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：気仙沼農業改良普及センター 第2回普及活動検討会を開催しました
 - 美里農改：「商工業に学ぶ農業の事業承継研修会」を開催しました
 - 農業振興課：令和5年度第2回アグリテック活用推進セミナーを開催しました
 - 美里農改：農業法人の雇用管理研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：円滑な事業承継のための研修会を開催しました
- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 登米農改：登米市農業士会視察研修会が開催されました
 - 登米農改：登米市地域計画に係る第2回「協議の場」が実施されました
 - 大崎農改：女性農業者のためのハーブ講座を開催しました
 - 美里農改：令和5年度宮城県農村教育青年会議 農村青年の主張の部で、美里4Hクラブ員が最優秀賞に輝きました！
 - 栗原農改：令和5年度みやぎ農業未来塾 in くりはら「将来の農業経営像を描こう！」を開催しました
 - 大河原農改：仙南4Hクラブで先進視察研修会を経営管理講座を開催しました
 - 大崎農改：産直野菜も夏に向けて対策を
 - 美里農改：美里地区生活研究クラブ連絡協議会が牛乳料理講習会を開催しました
- ③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 仙台農改：乾田直播栽培総合検討会を開催しました
 - 気仙沼農改：アグリテックアドバイザーによる農業用ドローン相談会を開催しました
 - 仙台農改：第12回「富県宮城」グランプリで「みやぎの食」振興部門賞を受賞されました
- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - 登米農改：登米管内でりんごせん定講習会・防除暦説明会が開催されました
 - 大河原農業：りんごのせん定研修会を開催しました！
 - 美里農改：「デリシャストマト紅白ゼリーセット」が「おいしい山形・食材王国みやぎ新商品アワード2023」を受賞
 - 美里農改：JA 新みやぎ仙台小ねぎ部会土壌診断研修会が開催されました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 大河原農改：道の駅「村田」で研修会を実施しました
 - 美里農改：JA新みやぎみどりの地区施設きゅうり部会栽培講習会が開催されました
 - 石巻農改：園芸振興に係る活動実績の検討を行いました！
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・ 10
 - 仙台農改：令和5年度農業経営力向上視察研修会が開催されました
 - 登米農改：迫稲作経営部会の肥料・農薬研修会が開催されました
 - 石巻農改：暗きよもみ殻の簡易開削充填機（モミタス）の実演会を行いました！
 - 美里農改：酒米の郷をさらに盛り上げるには ～松山町酒米研究会総会～
 - 登米農改：豊里稲作部会の実績検討会が開催されました
 - 大崎農改：栃木県下都賀地域から JA 古川へ子実とうもろこしの視察研修に訪れました

2. 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

- ① 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・ 12
 - 美里農改：令和5年度子実用とうもろこし生産拡大に向けた成績検討会が開催されました
 - 登米農改：第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
 - 気仙沼農改：気仙沼金のいぶき栽培反省会が開催されました
 - 気仙沼農改：気仙沼金のいぶきの試食会が開催されました

3. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・ 14
 - 仙台農改：仙台地区鳥獣被害対策担当者会議及び研修会を開催しました
 - 仙台農改：「食材王国みやぎ」推進優良活動表彰「大賞」受賞
 - 登米農改：農業現場の声を集約する「農業者等との意見交換会」が実施されました
 - 亘理農改：地域計画策定に係る協議が山元町で開催されました
 - 亘理農改：みやぎ食材伝道士「地域食材研修会」で当地域の特産品や生産者の紹介をしました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・ 15
 - 石巻農改：石巻地域における水田農業の将来を考えるセミナーを開催しました！
 - 登米農改：JAみやぎ登米の研修会で「グリーンな栽培体系」の実績を説明しました
 - 石巻農改：温暖化に適応した米・大豆づくり研修会を開催しました！

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

- 黒川地域で地域計画策定のための意見交換会が開催されました
令和6年2月6日
仙台農業改良普及センター



令和6年1月30日（火）に大和町において、黒川地域の農業委員及び農地利用最適化推進委員60名と各市町村担当者を対象として「地域計画策定」に向けた研修会が開催されました。

その後、市町村等の関係者による、地域計画策定推進に向けた意見交換会を開催しました。現在の進捗状況や課題について市町村担当者から報告が行われ、その後、活発な意見交換が行われました。

また、県農政部農業振興課や宮城県農業会議の担当者から、協議の場における参加者の実例や説明用資料の紹介、農業委員会サポートシステムの活用方法など、日頃の計画策定の中で疑問に思う点を解消し、先行事例について情報共有することで、今後開催する協議の場などをより円滑に進める上で大変有意義な情報交換となりました。

普及センターでは、今後も地域計画の策定を継続的に支援してまいります。

- 令和5年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
令和6年2月7日
仙台農業改良普及センター

令和6年2月2日、第2回仙台地域農業普及活動検討会を開催しました。普及活動検討会は、普及センターの活動が農業者や地域住民に理解され、効果的で効果の上がる活動となるよう、外部の検討委員に御意見を頂くものです。

検討会では、「仙台の農業法人営農支援」、「法人によるえだまめ栽培の定着」、「利府梨の産地活性化」、



「水稲乾田直播栽培による省力化」の4つのプロジェクト課題の活動について検討しました。

検討委員からは、「若い担手が法人に入り定着するには、法人がこの先どの様にしていくかなど中長期計画を社員に見せることが重要」。「大規模法人が水稲と労働競合しないよう枝豆に取り組み、大豆以外の収益の可能性を見出すことや新しいことに意欲的な人が集まり、会員どおしの交流ができたことが大きな成果」。また、「普及センターが率先して今、動かないと産地がなくなってしまうという思いは、まさに今後の農業の課題そのものであり、農業関係者が今動かないといけない大事なメッセージと受け取りました」など、評価を頂きました。

普及センターでは、委員の方々から頂いた評価や御意見等を肝に銘じ、より良い普及活動を実施してまいります。

- 大崎地域第1号！ 株式会社こうだいらプランテが「みどり認定」を受けました
令和6年2月15日
美里農業改良普及センター



このたび、大崎市鹿島台の農業法人「(株)こうだいらプランテ」が環境負荷を抑えた農業生産の取組について「みどり認定」を受け、令和6年2月8日に北部地方振興事務所長から公平伸行代表取締役へ認定証が授与されました。認定は大崎管内では初、宮城県内では5件目となります。

「みどり認定」とは、令和4年度にスタートした新たな制度で、みどりの食料システム法に基づき、農林漁業者が環境負荷低減に取り組む5年間の事業計画を作成し、県から認定を受けることで、税制や金融面の支援が受けられるものです。

(株)こうだらプランテでは、平成18年から減農薬・減化学肥料による農業生産に取り組んでおり、今回、スマート農業も組み合わせてさらに環境負荷低減に力を入れていく計画が認められました。

今回の認定をきっかけに、「みどり認定」制度が広く認知され、農業における環境負荷低減の取組がさらに拡大されることが期待されます。

○JA 青色申告会 PC 簿記研修会が開催されました 令和6年2月16日 気仙沼農業改良普及センター



JA 新みやぎ南三陸統括営農センターを会場に、令和5年12月21日よりJA 青色申告会のパソコン簿記研修会が開催され、当普及センターは第1、2回に講師として参加しました（延べ5名参加）。研修会は、以降も2月20日にかけて計5回の開催が予定されています。

研修会では、パソコン簿記ソフトの入力や参考書を基にした一般的な仕訳の方法について普及センターから解説を行いました。参加者はソフトの使い方に苦戦するところもありましたが、皆さん普段から記録をしっかりとっており、毎年参加される方は年々円滑に記帳を進められるようになっていました。

青色申告は、部門ごとに支出や収入を管理することにつながり、経営改善に向けた貴重な見直しの機会になっています。また、最大65万円の税額控除が受けられたり、損失額の繰り越し、繰り戻しができる、専従者給与を必要経費に算入できる、農業経営基盤強化準備金の積み立てができる、収入保険に加入できたりするなどの様々な利点もあります。

様々な利点がある青色申告を多くの人に取り組んでもらえるように、今後も支援していきます。

○農業法人の事業承継研修会を開催しました 令和6年2月16日 石巻農業改良普及センター

当管内には100を超える農業法人があり、地域農業の発展に欠かせない担い手となっています。その法人経営を継続するためには事業承継を円滑に進めることが大切であることから、令和6年2月7日（水）に石巻合同庁舎で「農業法人の事業承継研修会」を開催しました。

当日は生産者・関係機関など約30人が参加しました。



宮城県事業承継・引継ぎ支援センターから、「事業承継の現状とセンター活動について」と「事業承継って何するの?」と題して、センターの支援内容と前もって事業承継に向けて準備することの重要性などについて御講演をいただきました。また、有限会社耕佑の代表取締役伊藤秀太氏には、「事業承継をやってみて」と題して、事業承継の経緯と経営を発展させるための会社運営について御講演いただきました。

本研修会をきっかけに、管内の農業法人が事業承継に向けて動き出すことが期待されます。

普及センターでは、今後もJAや市と連携して農業法人の事業承継や経営能力向上について支援を行っていきます。

○気仙沼農業改良普及センター 第2回普及活動 検討会を開催しました 令和6年2月16日 気仙沼農業改良普及センター



気仙沼農業改良普及センターでは、令和6年2月6日（火）に第2回普及活動検討会を開催しました。検討会には、管内の指導農業士や市町等の関係機関、生活者など委員6人に出席していただき、普及センターで重点的に取り組んでいるプロジェクト課題の活動状況と令和6年度普及指導計画案について検討していただきました。

プロジェクト課題については、課題No.1「担い手を核とした地域農業の継続・発展」、課題No.2「市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展」、課題No.3「四季成りいちごの生産体制確立による収量確保」の3課題の活動状況と成果を報告し、委員からは労働面や生産効率等からの質問や活動方法についての意見、評価をいただきました。また、令和6年度普及指導計画案については、計画の概要と令和6年度に新たに立ち上げるプロジェクト課題について説明しました。

今回の普及活動検討会でいただいた助言、意見等については所内でとりまとめを行い、これからの普及活動に活かしてまいります。

○「商工業に学ぶ農業の事業承継研修会」を開催しました

令和6年2月27日

美里農業改良普及センター



美里農業改良普及センターでは2月15日、「商工業に学ぶ農業の事業承継研修会」を開催しました。

農業者の事業承継への理解を深めるために行ったもので、管内の農業法人や個人農家、関係機関等から約30名が参加しました。

講演では、中小企業診断士の一柳和博氏から、商工業では経営が順調でも事業承継がうまく行かずに休廃業に追い込まれるケースが多い現状や、事業承継で多くの経営者が苦勞する点などについて説明がありました。

講師からは参加者に対し、「事業承継には時間がかかるので、一人で悩まずに、とにかく早く支援機関に相談してほしい。」と呼びかけがありました。

農業者の高齢化により、事業承継は今後ますます重要な課題となっていくと思われます。

普及センターでは今後も継続して事業承継に向けた情報提供や支援に取り組んでまいります。

○令和5年度第2回アグリテック活用推進セミナーを開催しました

令和6年2月27日

宮城県農業革新支援センター

(農政部農業振興課普及支援班)



宮城県では、スマート農業などのICT技術を活用したアグリテックを推進しています。

令和6年2月2日(金)、今年度第2回目のアグリテック活用推進セミナーを開催し、会場の松島町文化観光交流館には農業者や農機メーカー、関係機関など103人にお越しいただきました。

セミナーは、「営農・栽培管理システムで、水田農業の見える化を」をテーマに、農林水産省の村松氏から「営農・栽培管理システムの現状と効果的な活用」と題した講演をいただき、その後、企業8社による営農・栽培管理システムの展示会を開催しました。

営農管理システムの中には、GAPに対応したものや、農業機械と連携してほ場や作業時間などの記録を取得できるもの、また最近では、衛星画像や気象データを基にした生育診断や生育予測、病害虫の発生予測など栽培管理を支援するシステムや、可変施肥のための施肥マップを作成するシステムも開発されており、各自が気になったシステムを個別に質問するなど、導入や活用に向けて積極的に聞き入る農業者の姿が多く見受けられました。

県では、アグリテックの普及拡大に向けて、アドバイザー派遣による専門的指導や、農業者や企業とのネットワークによる相互の情報発信など、農業者を支援しています。ご興味のある方は、各地域の農業改良普及センターにお気軽にご相談ください。

○農業法人の雇用管理研修会を開催しました

令和6年2月27日

美里農業改良普及センター



農業における担い手不足と高齢化が進む中、経営継続と発展のため、雇用による人材確保を検討する農業法人が増えています。

そこで、令和6年2月16日に、雇用を検討している管内農業法人の役員10人を対象に、雇用管理研修会を開催しました。

講師に社会保険労務士の鈴木大輔氏を迎え、「農業経営における労務管理の留意点」をテーマに、求人のコツ、雇用契約、労働・社会保険加入、労働時間など、従業員を雇用する際の留意点をわかりやすく解説していただきました。

雇用管理について初めて学ぶ参加者も多く、熱心に耳を傾けていました。講義終了後には、安全衛生教育の方法や労災保険の加入の仕方など、多くの質問が出ており、将来の雇用に向けて多くの知識を習得できた様子でした。

○円滑な事業承継のための研修会を開催しました
令和6年2月29日
気仙沼農業改良普及センター



花巻市農林部農政課地域農業推進室での研修



有限会社盛川農場での視察

令和6年2月8日に開催した「農業経営の持続性確保に向けた研修会」では、有限会社氏家農場（涌谷町）の代表取締役氏家靖裕氏、鈴木労務経営コンサルタント代表鈴木大輔氏（中小企業診断士・社会保険労務士・行政書士）を講師として迎え、それぞれ先進法人の経営者、専門家として御講演いただきました。研修会には、管内の生産者19名が参加しました。

氏家氏からは、経営発展に向けた取り組みとして、HACCPに基づく管理、GAP認証の取得、農福連携や技能実習生の受け入れに加え、経営理念の明確化と共有、承継の時期をすでに念頭に置きながら経営を行っていることなどを紹介いただきました。生産から社内体制に至る総合的な取り組みを行いながら経営発展を実現している先進事例に、参加者は興味津々に聞き入っていました。

鈴木氏からは、事業承継の形態とそれぞれの特徴、必要な準備期間や留意点について法人だけでなく、営農組合等の場合についても触れながら、わかりやすく御説明いただきました。

参加者からも好評をいただき、2つの御講演をとおし、承継に際して、経営理念や中長期的な準備が重要であることへの理解が深まったようでした。

円滑な事業承継には、早めに準備を行うことが大切です。「元気だからまだ早い」ではなく「元気だからこそ早め」に承継を考えてみませんか。

②新たな担い手の確保・育成

○登米市農業士会視察研修会が開催されました
令和6年2月6日
登米農業改良普及センター

令和6年1月18日～19日に登米市農業士会の視察研修会が行われ、5人の農業士が参加しました。

視察先として花巻市農林部農政課地域農業推進室と有限会社盛川農場（岩手県花巻市）の2か所を訪問し、花巻市が整備したRTK-GPS基地局を活用した

自動操舵システムやドローンなどによるスマート農業の状況についてお話を伺いました。

まず、18日に訪れた花巻市農林部農政課地域農業推進室では、RTK-GPS基地局設置の経緯や市のスマート農業に関する施策と推進状況について担当者から説明をいただきました。

19日には有限会社盛川農場を視察し、代表取締役の盛川氏より自社の経営内容やRTK-GPS基地局を活用したスマート農業の取り組みについて詳しく説明をいただきました。さらに、大型トラクターや子実用トウモロコシの収穫機、乾燥調製施設も見学しました。

参加者からは、国内でもいち早く市を挙げてスマート農業のインフラ整備に取り組んだ花巻市における取組や農業関係機関の連携体制などについて活発に質疑が行われました。

普及センターでは、農業士のスキルアップにつながる活動を今後も支援していきます。

○登米市地域計画に係る第2回「協議の場」が実施されました
令和6年2月8日
登米農業改良普及センター



登米市では地域農業の未来設計図となる「地域計画」について、市内9地区で策定することとしています。農業者からの意見を反映した計画とするため、今

年度、地区ごとに2回「協議の場」を実施することとしており、第2回を1月16日～26日にかけて、開催しました。

第1回では広く参加者を募って地域農業の課題とその解決策を検討しましたが、第2回では、1回目の参加者に土地利用型の大規模農家を加える形で参集し、10年後の効率的な耕作に向けた目標地図の原案を作成しました。

普及センターは、今回もサブファシリテーターとして、進行や目標地図の原案作成を支援しました。

登米市では、今年度内に「地域計画」の素案を作成し、来年度、第3回の「協議の場」で、素案に対して広く意見を伺う予定としております。

普及センターでは、策定される「地域計画」が、地域の意見を反映し、有効な計画となるよう引き続き支援してまいります。

○女性農業者のためのハーブ講座を開催しました 令和6年2月19日 大崎農業改良普及センター



農村地域において、女性農業者の活躍は大きく期待されているものの、普段は家庭や個々での仕事を中心となり、新しいアイデアや取組を生むための横のつながりを持つ機会が少ないようです。そこで女性農業者にとって興味のある学びと若手女性の掘り起こし、そして女性農業者間のネットワーク構築の一助とするため、令和6年2月9日ハーブ講座を開催しました。

今回の講座では、ハーブ工房まーじょらむ代表 阿部 薫 氏を講師に、身近なハーブを再認識し、効能と活用法を学ぶワークショップを行いました。参加者は、講話の中で精油を作る工程に驚き、精油の効能や使い方の説明にメモをとり、熱心に話を聞く様子が見られました。また、オリジナルのスキンケア作りでは、参加者同士が互いに香りを確かめ合うなど、和気あいあいとした雰囲気で作業が進みました。

情報交換でも、講師への質問をはじめ、ハーブの活用等について話題が尽きず、参加した女性農業者

にとって有意義な会となったようでした。

普及センターでは、今後も資質向上や仲間づくりを通して、女性農業者の活躍を支援します。

○令和5年度宮城県農村教育青年会議 農村青年の主張の部で、美里4Hクラブ員が最優秀賞に輝きました！

令和6年2月19日
美里農業改良普及センター



令和6年2月3日（土）に、宮城県青年会館（エスポールみやぎ）で令和5年度宮城県農村教育青年会議が開催されました。

当会議は、各4Hクラブ代表者が日頃感じている農業に対する想いの主張（農村青年の主張）や、日々の活動を通じて得た成果の発表（プロジェクト発表）を通じて情報交換を行い、新しい農業と農村の発展方向を見出すことを目的として毎年開催されています。

農村青年の主張の部で美里4Hクラブの阿部奏斗さんが「One for all, all for one.」と題し、ふとしたことで「気遣い」の大切さに気づいたことをきっかけとして、それを活かして持続可能な農業を実現したいという考えを発表しました。

このほかにも各4Hクラブから、収量向上及び経営改善の取り組みや農業に対する熱い思いなど、素晴らしい発表が行われました。

審査の結果、阿部奏斗さんが農村青年主張の部において最優秀賞を受賞しました。

阿部さんは、令和6年10月に開催される第54回東北農村青年会議宮城大会の宮城県代表として発表することになります。東北大会での活躍を期待しますとともに、普及センターでは引き続き農村青少年の資質向上を支援していきます。

○令和5年度みやぎ農業未来塾inくりはら「将来の農業経営像を描こう！」を開催しました

令和6年2月20日
栗原農業改良普及センター



令和6年2月15日(木)に、栗原合同庁舎において、就農1～5年目の新規就農者(雇用就農を含む)等を対象に、みやぎ農業未来塾 in くりはら「将来の農業経営像を描こう!」を開催し、新規就農者、就農予定者等11名が参加しました。

研修会では、「株式会社石ノ森農場」の代表取締役である山内健太郎氏より、「親元経営から法人経営へ。新たな経営展開へのポイント」と題して講演をいただきました。親元就農後に農業法人を設立、情報通信技術を活用した複合環境制御システムによる施設きゅうり栽培を導入するなど、今なお成長を目指す姿は、新規就農者にとって大きな刺激になったようです。また、研修会終了後は、講師との名刺交換やお互いの経営について情報を交換し合う等、参加者間の交流が図られました。

○仙南4Hクラブで先進視察研修会を経営管理講座を開催しました
 令和6年2月21日
 大河原農業改良普及センター



株式会社椎彩社での視察

仙南地区農村青少年クラブ連絡協議会(仙南4Hクラブ)は、大河原農業改良普及センター管内の若手農業者で構成され、クラブ員相互の親睦並びに技術や知識の向上を目的に様々な活動を行っています。

その活動の一環として令和6年1月24日に先進視察研修会を実施し、宮城県北で農産物の生産から加工まで取り組む3法人を訪問しました。

はじめに、有限会社氏家農場(涌谷町)を訪問し、ねぎ生産から加工までの取り組みについて説明いただいた後、モニター画面でカット工場の見学を行いました。

次に、株式会社椎彩社(南三陸町)で、椎茸の生産施設の視察を行いました。

最後に、イチゴやトマトを栽培している有限会社サンフレッシュ松島を訪問しました。

研修会には会員6名が参加し、訪問先では、土づくりなどの栽培技術や、従業員の人材育成、加工委託先

等経営に関わる質問や質疑応答が活発に行われ、大変有意義な研修となりました。

○産直野菜も夏に向けて対策を
 令和6年2月22日
 大崎農業改良普及センター



大崎市古川にある、旬の店シンフォニーは、大崎地域の新鮮な野菜や米・加工品を扱う農産物直売所です。この直売所に出荷する生産者を対象とした栽培講習会が開催されました。

はじめに、株式会社渡辺採種場の担当者から今年の夏の暑さに向けた対策として、日よけ資材の種類や効果、かん水チューブによる効率的なかん水、キャベツやかぼちゃの品種選びについてお話がありました。続いて普及センターから、昨年の猛暑に関する気象経過と、暑さに対応した作付けの工夫や対策について説明を行いました。

参加者からは、昨夏生育の悪かったエダマメやネギ、ピーマンに関する質問のほか、害虫の発生を見分けるポイント、防除のタイミングなど積極的に質問が出され、「暑い夏も品質のいい野菜を作りたい」という思いが感じられました。

○美里地区生活研究クラブ連絡協議会が牛乳料理講習会を開催しました
 令和6年2月26日
 美里農業改良普及センター



美里地区生活研究クラブ連絡協議会(会員34人)は、令和6年2月7日、美里農業改良普及センターを会場に、地場産食材への興味・関心を深め、国産牛乳・乳製品の利用拡大を図るための料理講習会を開催し、14人が参加しました。

当日は、大郷町産の牛乳を使って大崎市田尻で製造されたモッツァレラチーズを主役に、大崎市鹿島台産のトマトや涌谷町産のりんご、美里町産の大葉加工品等の地場産食材を使用した4種類の献立を作り、試食しました。

参加者の一番人気は、薄切りにしたじゃがいもをフライパンに並べてバターでカリカリに焼き、仕上げにモッツァレラチーズをのせた「ポテトアンナ」で、自宅でも作ってみたいとの感想が出されました。

普及センターでは、美里地区生活研究クラブ連絡協議会の活動を支援するとともに、農山漁村のより良い生活や地域の活性化に向けた、女性農業者の活躍を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○乾田直播栽培総合検討会を開催しました 令和6年2月1日 仙台農業改良普及センター



水稻乾田直播栽培技術を導入し収量向上を目指す生産者を支援するため、仙台湾沿岸地域で栽培管理の要所となる時期に勉強会を開催してきました。今回は令和6年1月19日に今年度のもともとなる乾田直播総合検討会を開催し、生産者や農協職員など34名が参加しました。

総合検討会では、普及センターから令和5年作についての情報提供を行ったほか、東北農業研究センターの方を講師とした講義や、普及協力員を中心とした意見交換を行いました。東北農業研究センターの講義では、基本技術の解説のほかに、記録的な高温であった今作の課題やその対策についてもご講義いただきました。特に、高温時の対策については参加者も聞きながら熱心に耳を傾けており、関心が高いこ

とが窺えました。また、意見交換の際は、雑草防除や栽培品種等、様々な課題について活発に意見が交わされました。

今年度で仙台湾沿岸地域で実施している乾田直播栽培に係るプロジェクト課題は終了しますが、普及センターでは今後も管内の水稻乾田直播栽培技術の定着を支援してまいります。

○アグリテックアドバイザーによる農業用ドローン相談会を開催しました 令和6年2月5日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年1月26日南三陸町、気仙沼市の農業法人2社を対象に、農業用ドローン導入に向けた相談会を開催しました。

アドバイザーとして、株式会社ケーエスをお迎えし、最新機種による散布作業のデモを行いました。RTK-GNSS 基地局のデータを活用し、事前に測量したほ場データに基づく飛行マップ作成と自動飛行による散布の様子を見学しました。10a 当たり1分程度で散布が完了すると、見学者からは驚きの声が上がりました。デモの後は、規模に応じた機体性能や費用対効果、必要な資格等について、情報・意見交換が行われ、導入に向け、より具体的なイメージが整理されました。

宮城県では、アドバイザー派遣の他、農業用ドローンをはじめとしたアグリテックの推進のため、トラクタや田植機の直進アシスト等にも活用可能な RTK-GNSS 基地局のサービスを本年度から提供していますので、御活用ください。

**○第12回「富県宮城」グランプリで「みやぎの食」
振興部門賞を受賞されました**
令和6年2月19日
仙台農業改良普及センター



2月9日（金）、宮城県庁で第12回「富県宮城グランプリ」表彰式が開催され、仙台ターミナルビル株式会社（仙台市）が「みやぎの食」振興部門賞を受賞されました。

仙台ターミナルビル株式会社では、ショッピングセンター事業、ホテル事業を手掛けながら、津波で被災した荒浜地区に「JRフルーツパーク仙台あらはま」を開業し、生産から販売、農業体験といった幅広いサービスを提供することで、周辺施設との差別化を図っています。

また、フルーツパークでは、約11haの農園で、イチゴやブドウ、リンゴなど果物を150品種以上栽培し、スマート農機や全国的にも取組が少ないジョイント栽培の導入により、省力化と早期多収を実現したほか、その技術を農業者に発信する取組も行っていることなどが高く評価されました。

仙台普及センターでは、多様なニーズに対応した園芸品目の生産拡大に向けた取組を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

**○登米管内でりんごせん定講習会・防除暦説明会
が開催されました**
令和6年2月1日
登米農業改良普及センター



令和6年1月26日に、JAみやぎ登米りんご生産部の「せん定講習会・病害虫防除暦説明会」が開催され、部会員17人が参加しました。

午前の部は、中田町のりんご園地にて「せん定講習会」が行われ、普及センター職員が講師となって、わい性台木の若木「ふじ」のせん定方法について実技講習を行いました。主幹頂部の切り下げ後のせん定方法や下垂した側枝の切り上げ方法について参加者同士で議論するなど、充実した講習会となりました。

午後の部は「病害虫防除暦説明会」が行われ、普及センターから気象経過や病害虫の発生状況など令和5年産の振り返りと令和6年産防除暦について説明しました。昨年は開花期の凍霜害や夏季の高温乾燥により収量が低下した生産者が多かったため、次年産は高品質な果実生産ができるよう参加者は熱心に耳を傾けていました。

当普及センターでは、安定したりんご生産ができるよう継続して支援していきます。

○りんごのせん定研修会を開催しました！
令和6年2月6日
大河原農業改良普及センター



令和6年1月31日（水）に「りんごせん定研修会」を白石市内のりんご生産者の園地を会場に、JRフルーツパーク仙台あらはま 観光農業部専門監 菊地秀喜氏を講師に迎え、開催しました。

この研修会は、当普及センターが取り組んでいるプロジェクト課題「果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築」の活動の一環として開催しました。

若手果樹生産者を対象としているため、講師からは実演を通じたせん定の講義だけでなく、樹勢の判断や枝の配置等、せん定の基礎知識に関する講義もありました。

わい性台木の樹形や各台木の特徴など、日頃聞く機会が少ない話題も多く、参加者と講師の間で活発な質疑応答が行われていました。

研修会中、参加者は栽培技術・知識を深めるとともに、参加者同士の交流も行われ、お互いに意見を言いながらせん定する場面も見られました。

普及センターでは、果樹産地の維持・発展に向け、引き続き若手果樹生産者への支援を続けてまいります。

○「デリシャストマト紅白ゼリーセット」が「おいしい山形・食材王国みやぎ新商品アワード 2023」を受賞
令和6年2月6日
美里農業改良普及センター



宮城県では、山形県、七十七銀行、山形銀行及びやまがた食産業クラスター協議会と共同で、「おいしい山形・食材王国みやぎ新商品アワード」という表彰制度を令和3年度に創設し、バイヤー投票等により受賞商品を選定しています。

今回、大崎市鹿島台でトマトを生産する農業法人「デリシャスファーム株式会社」の「デリシャストマト 紅白ゼリーセット」が受賞商品に選ばれ、令和6年1月30日に宮城県庁で表彰盾の贈呈式が行われました。

同法人では、フルーツのように甘く酸味とのバランスの良いデリシャストマト（品種：「玉光デリシャス」）を生産しており、自社の直売所やレストランで、トマトを使った様々な加工品等を販売しています。

今回受賞された紅白ゼリーは、デリシャストマトの果肉感が特徴的な「丸しぼりゼリー」と、時間をかけて丁寧に旨味エキスを抽出した「露しずくゼリー」の2種類がセットになっており、それぞれで違った風味や食感が楽しめる商品です。

また、ゼリーには規格外のデリシャストマトを活用しており、SDGs（持続可能な開発目標）に向けた取組が高く評価されました。

この度の受賞、誠にありがとうございます。紅白ゼリーセットは、同法人の直売所などで販売中です。ぜひ、ご賞味ください！

○JA 新みやぎ仙台小ねぎ部会土壤診断研修会が開催されました 令和6年2月9日 美里農業改良普及センター

JA 新みやぎみどりの管内の涌谷町は東北最大級の小ネギ産地であり、生産された小ねぎは「仙台小ねぎ」として全国に流通しています。

JA 新みやぎ仙台小ねぎ部会の定例の土壤診断研修会が1月30日（火）に開催されました。

普及センター職員が講師となり、11～12月に実施した土壤診断の各項目において、小ねぎ部会全体の傾向や課題について説明しました。各部会員の土壤



診断結果についても個別に解説を行い、pHの補正や今後の施肥方法などの改善策を提案しました。

全体ではリン酸や残存窒素が多めの傾向があり、窒素単肥など土壤診断に基づいた施肥の取組により改善傾向にあるため、今後も継続していくように呼びかけました。

また、小ねぎ部会土壤対策班が実施した、太陽熱土壤消毒と緑肥による生育改善の試験について、それぞれの効果や今後の課題について説明しました。

生産者からは、堆肥等の有機物施用や緑肥の効果について活発に質問が出され、土づくりへの意識の高さがうかがえました。

普及センターでは、引き続き持続性の高い小ねぎ生産に向けて土づくり等の支援を行ってまいります。

○道の駅「村田」で研修会を実施しました 令和6年2月13日 大河原農業改良普及センタ



令和6年2月5日（月）に、道の駅「村田」で出荷団体「村田ファームーズ」総会が開催され、会員54人が出席しました。

その後、会員に対し研修会が行われ、普及センター職員が講師となり、令和5年産の「とうもろこし」及び「そらまめ」の栽培の振り返りと次作に向けた注意点について、また、消費者ニーズに合った野菜の栽培などについて説明しました。

普及センターでは、今後も関係機関と一体となり、研修会などを実施しながら、道の駅「村田」直売所の生産振興と販売促進に向けて、支援を行ってまいります。

○JA 新みやぎみどりの地区施設きゅうり部会栽培講習会が開催されました 令和6年2月20日 美里農業改良普及センター



塩基バランスの乱れが原因と思われる葉の障害

令和6年2月7日にJA新みやぎみどりの地区施設きゅうり部会栽培講習会が開催され、部会員5人が参加し、土壌分析に基づいた適正施肥について学びました。

講習会では、普及センターが1月に実施した土壌分析結果と過去の分析データを比較し、肥料成分や塩基バランスの推移などを報告し、それぞれの土壌の現状や課題を確認しました。また、減肥の取組や有機物主体の施肥設計などの情報を提供しました。

肥料成分の過剰や塩基バランスの乱れが原因と思われる生育不良（葉の障害等）の課題があるものの、着実に改善が見られており、部会員の土壌改良に関する意識が高まってきています。

肥料価格の高騰による経営への影響や持続可能な環境にやさしい農業への対応が求められており、コスト削減や環境負荷を考慮した施肥が重要となっています。今後も土壌診断による施肥設計を行い、単肥や堆肥などを活用した土壌改良に取り組んでいくこととなりました。

普及センターでは、土壌分析に基づく適正施肥管理の取組などを支援し、園芸品目の安定生産、環境にやさしい農業生産を推進していきます。

○園芸振興に係る活動実績の検討を行いました！ 令和6年2月29日 石巻農業改良普及センター



令和6年2月27日に本年度4回目の石巻地域園芸特産振興会議を開催し、令和5年度園芸振興に係る活動実績と令和6年度計画等について、JAいしの

まき、株式会社石巻青果、石巻市及び東松島市の担当者とともに検討を行いました。

石巻地域で面積が拡大しているばれいしょは、水田を活用できる園芸品目として新たに取り組む法人が増加しており今後も推進していくとの共通認識を得ました。

一方、石巻地域を代表するいちご、きゅうり、トマト、ねぎ及びせりなどの今後の見通しでは、高齢化による担い手の減少、資材高騰による経費の上昇、夏季高温の被害を受けながらも、生産活動を維持している農業者の取組状況を共有することができました。また、担い手の確保として就農希望者の研修の場が必要という意見などがあり今後の課題となりました。

担い手不足による労働力確保、資材高騰、異常気象の頻発など厳しい経営の舵取りが求められますが、普及センターでは関係機関と協力し、今後も石巻地域の園芸振興を進めます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令和5年度農業経営力向上視察研修会が開催されました 令和6年2月5日 仙台農業改良普及センター



令和6年1月26日、農業経営力向上視察研修会が開催されました。

今回の研修会は、仙台市西部で農地整備事業を実施している地域で、高収益作物としてネギ栽培を進めている2つの担い手経営体に対する支援の一環として、県内で先進的にネギの栽培に取り組んでいる加美町の「タカノ産業株式会社」を視察したもので、当日は代表取締役高橋範宇氏と先代会長の高橋秀喜氏にご対応いただき、研修会参加者は関係機関担当者を含め18名でした。

タカノ産業(株)は農業経営の安定化と収益力向上に向けて、水田農業における水稻主体の農業から高収益作物主体の農業へ積極的な経営展開を図るため、平成27年に先代社長（現会長）が設立した一戸一法人です。各種補助事業の活用により規模拡大と

周年供給体制の確立に向けた機械化と施設導入を進めてきました。

現在のネギの作付面積は約7ヘクタール、さらに同面積のネギをグループ化した周辺農家から仕入れ、地域のネギ生産を活性化させる取り組みを行っています。品質にこだわるネギとして氷温貯蔵による周年出荷を実現しており、取引先からは高く評価されています。

研修参加者からは、今後目指すべき収益性の高いネギ生産のヒントが得られ、大変参考になったとの声が聴かれました。

○迫稲作経営部会の肥料・農薬研修会が開催されました

令和6年2月16日

登米農業改良普及センター



令和6年2月8日にJAみやぎ登米迫稲作経営部会の肥料・農薬研修会が開催されました。今回の研修会は部会員に限らず、迫地域の生産者も参加し、生産者、メーカー、関係機関あわせて約45人が出席しました。

普及センターからは主に令和6年産に向けた高温対策として晩期栽培や稲の葉色の維持について説明しました。また、肥料・農薬メーカーからは適切な農薬の使い方、異常気象にも負けない稲体づくりとして土づくり肥料の説明が行われました。生産者は、昨年苦勞した雑草防除や高温への対策を行い、6年産米を高品質なものにしようと意気込んでいました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○暗きよもみ殻の簡易開削充填機(モミタス)の実演会を行いました！

令和6年2月21日

石巻農業改良普及センター



令和6年2月16日に当普及センター主催で暗きよもみ殻の簡易開削充填機「モミタス」の実演会を石巻

市河南地区の(農)たてファーム・和のほ場で開催しました。

モミタスは、ほ場暗きよの直上に切り込みを入れ、疎水材のもみ殻を充填する機械で、営農組織等が低コストで自ら施工できる作業機械として、平成19年に古川農業試験場が開発しました。石巻地域では水田のブロックローテーションによる畑地化利用が多く、暗きよのもみ殻の腐食が急速に進むため、暗きよ疎水材の充填は排水機能を維持する上で重要な作業です。転作を行っている、たてファーム・和のほ場もほ場整備から10年以上が経過し、もみ殻の腐食が進んでいました。

実演会には生産者・関係機関の方々約40人が集まり、古川農業試験場の佐藤上席主任研究員からももみ殻の充填の必要性について説明を受けた後、実際にモミタス施工の実演を確認しました。参加者はモミタスの仕組みや作業の流れを実際に見て学び、今後の営農や指導の参考にしていました。

当普及センターは、これからも研修会や日々の指導を通じて、水田の畑地化に伴う排水性の向上・維持に関する技術支援を行ってまいります。

○酒米の郷をさらに盛り上げるには ~松山町酒米研究会総会~

令和6年2月21日

美里農業改良普及センター



松山町酒米研究会(以下「研究会」)は、大崎市松山地域で地元酒蔵の(株)一ノ蔵と連携しながら酒米づくりに取り組んでいます。

2月11日に、「第30回松山町酒米研究会総会」が開催されました。

はじめに、研究会設立30周年の記念講演として宮城大学食産業学群の三石誠司教授を講師に、食料・農業・農村基本法見直しに関する現状や、世界と国内の食料事情など、グローバルな視点での講演をいただきました。

続いて、令和5年産酒米コンクールの表彰があり、優秀な成績を収めた生産者の成果を会員で讃えました。

総会では令和5年度の活動についての振り返りと、令和6年度の事業計画などの検討を行いました。会場から研究会発足30周年イベントについて質問が出るなど、活発な質疑が行われ今後の活動に対する期待がうかがえました。

普及センターでは、引き続き研究会の活動を支援し、特色ある米づくりを推進してまいります。

○豊里稲作部会の実績検討会が開催されました 令和6年2月26日 登米農業改良普及センター

JAみやぎ登米豊里稲作部会は、設立当初から「ササニシキ」の栽培に一丸となって取り組んでおり、これまで県の農林産物品評会や「ささ王」コンテストにおいて上位入賞者を輩出してきました。

部会では毎年実績検討会を開催し、会員同士語り合うことでその年の反省点を整理し、次作へ生かす取り組みを続けています。

今年度は令和6年2月16日に実績検討会が開催され、生産者、メーカー、関係機関あわせて14人が出席しました。

普及センターからは、令和5年産稲作の総括と令和6年産のポイントとして、主に高温対策について説明を行いました。また、会員の中でも篤農家3人の「ササニシキ」ほ場を調査した結果について報告を行いました。令和5年産は高温登熟の影響で管内の「ササニシキ」の1等米比率は20%と大きく落ち込みましたが、豊里地区は59%と高く、意識して基本の土づくりに取り組んできた成果が出たと考えられます。

生産者からは、晩期栽培を行う上での播種時期についてやタンパク含量を考慮した施肥についての質問が出されたほか、会員のほ場の土壌分析を行おうといった提案もあり、活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○栃木県下都賀地域から JA 古川へ子実とうもろこしの視察研修に訪れました 令和6年2月27日 大崎農業改良普及センター



令和6年2月22日（木）、栃木県下都賀地域子実とうもろこし生産・利用研究会から8名がJA古川に先進地視察研修に訪れました。当研究会では、令和4年から子実とうもろこしの生産・利用に取り組んでおり、令和6年作付けに向けた課題解決のため、先進的な取組をしているJA古川に視察研修に訪れたものです。

視察研修では、播種時期や殺虫剤散布についてなど子実とうもろこしに関するだけでなく、大豆栽培についても質問が出るなど、活発な意見交換が行われるとともに、納品されたばかりの真空播種機に興味深げに見学し、子実とうもろこし生産に対する意欲の高さが伺われました。

2. 農畜産物の安定供給

①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○令和5年度子実とうもろこし生産拡大に向けた実績検討会が開催されました 令和6年2月6日 美里農業改良普及センター



令和6年1月19日（金）に、涌谷地域農業再生協議会主催で子実とうもろこし生産拡大に向けた実績検討会が開催されました。

はじめに、農研機構東北農業研究センター 篠遠氏から東北地域における子実とうもろこしの研究状況について報告がありました。また、最近の飼料価格高騰の影響で作付面積が増加傾向にあることや、基本的な栽培技術のほか、今後の課題として通年供給を目指した大規模産地化や乾燥調製・貯蔵・流通体系の仕組みづくりについて講演いただきました。

次に、畜産試験場草地飼料部 杉本研究員から「涌谷町内の栽培実績—アワノメイガ対策と湿害対策—」と題して、今年度実施された殺虫剤散布試験と湿害対策試験について報告がありました。殺虫剤散布に係るアワノメイガ対策については、食害や赤かびの低減、収量の増加といった効果が期待されるとのことでした。

そのほか、大分県における子実とうもろこしに関する研究事例紹介（講師：独立行政法人国立高等専門学校機構大分工業高等専門学校 森田氏）、種苗会社（サナテックシード株式会社）及び飼料・食品会社（伊藤忠飼料株式会社）からの情報提供があり、充実した検討会となりました。

涌谷地域では令和4年度から子実とうもろこしの生産が始まり、令和5年には約50haまで作付が拡大しています。

普及センターでは今後も水田フル活用に向けた取り組みを支援していきます。

○第2回登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました 令和6年2月14日 登米農業改良普及センター

普及センターでは普及活動の改善を図ることを目的に、課題設定や計画、活動状況等について外部委員から意見を求める普及活動検討会を開催しており、令和6年2月2日（金）に、今年度第2回目の検討会を開催しました。

今回は、令和5年度普及指導計画の中から今年度で完了するプロジェクト課題の活動実績について、



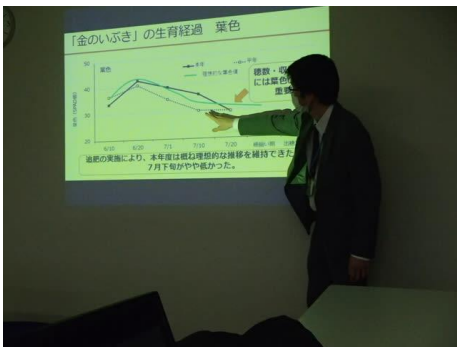
また、現在策定中の令和6年度普及指導計画からは、普及指導方針や新規プロジェクト課題2課題の活動計画について、それぞれ検討していただきました。

完了課題の「加工用ばれいしょ栽培技術の向上」については、「目標とした収量水準の妥当性はどうか」、「品質低下した要因は何か」、「そもそも地域で知られていない。周知が必要」といった踏み込んだ意見をいただきました。

令和6年度からの新規プロジェクト課題2課題のうち、「地域営農構想の実現に向けた営農体制整備」については、「担い手の現在の年齢構成はどうか。農地整備完了時まで見越した計画が必要ではないか」といった意見をいただきました。もう一つの「加工用ばれいしょ産地の生産基盤強化に向けた体制構築支援」については、「産地形成には、共通で使用できる機械や施設が必要」といった意見をいただきました。

普及センターでは、今回いただいた意見を参考に、効果的な普及活動の推進に努めることとしています。

○気仙沼金のいぶき栽培反省会が開催されました 令和6年2月20日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年2月2日に、気仙沼金のいぶき協議会による標記反省会が開催され、会員4名が出席しました。普及センターは講師として参加し、今年の作柄や来年に向けた対策について検討を行いました。

本年度は、追肥などの栽培管理を丁寧に行った結果、高温下でも概ね適正な葉色・茎数が確保されました。一方、刈取適期になっても籾水分が高く推移したことから、刈り遅れによる穂発芽が発生し、収量・品質は伸び悩みました。

このため、来年度に向けた対策として、土づくり、適期刈取等の実施について確認するとともに、参加した生産者からは「水が十分確保できたほ場で比較的収量・品質が良かったので、高温下では出穂後の水の確保により留意したい」など、来年度の作付け拡大に向け、積極的な意見が交換されました。

また、令和6年産「気仙沼金のいぶき」の作付けを希望する声も上がり、プラスチック被覆肥料を使用しない、貝殻肥料を使用するという2つの独自要件の徹底について、改めて確認しました。

○気仙沼金のいぶきの試食会が開催されました 令和6年2月29日 気仙沼農業改良普及センター



令和6年2月22日、気仙沼金のいぶき「港町玄米」完成記念試食会が、キッチンスペース夢の舎（気仙沼市）を会場に開催されました。

当日は、気仙沼市長らを来賓にお迎えし、20名が参加しました。

「気仙沼金のいぶき」は、令和5年4月に設立された「気仙沼金のいぶき協議会」（会長：芳賀一充氏）が定めた、「マイクロプラスチック海洋汚染をしないようプラスチックコーティング肥料を使わない」、「廃棄物有効利用による貝殻を活用した土づくりを行う」という、気仙沼市の地域色を活かし、環境に配慮した独自の栽培基準で栽培したもので、この度「港町玄米」として商品化されました。

試食会では、協議会が目指す海の環境への配慮や地元の海産物とのコラボレーションというコンセプトに沿って、地元の素材を使ったホタテ貝柱の中華粥、パエリア風炊き込み御飯などの料理が提供されました。調理を担当していただいた夢の舎代表理事シェフの石田氏からは、そのまま食べるだけでなく、アレンジの幅が広いことへの期待が語られ、試食した参加者からも「これまでの玄米と違って美味しい」といった高評価をいただきました。

地域の新たな特産品として、稲作経営の発展につなげていけるよう、引き続き支援を行っていきます。

3. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○仙台地区鳥獣被害対策担当者会議及び研修会を開催しました

令和6年2月1日

仙台農業改良普及センター



管内では、近年生息域が拡大しているイノシシによる農作物被害の低減に向けて様々な取組が行われています。そのような中、カモ、カラス、ムクドリ、ハクビシン等による農作物被害が管内でも確認されるようになってきています。これらの対応について管内市町村が情報を共有し協力するため、1月26日(金)、仙台合同庁舎において「仙台地区鳥獣被害対策担当者会議及び研修会」を開催しました。

担当者会議では、各市町村から被害状況や地域課題、独自の取組を紹介し、対応に苦慮する事案への対応等について情報交換を行いました。

研修会では、東北野生動物保護管理センターの研究員 小野田泰士氏から「ハクビシン、アライグマ等中型獣類による農作物被害対策について」と題して講演がありました。ハクビシン、アライグマの生態や具体的な捕獲方法、継続的な防除と維持管理の重要性について、専門家の経験を交えてお話いただきました。

普及センターでは、今後も、関係機関と連携して地域ぐるみで行う鳥獣被害防止対策を継続的に支援してまいります。

○「食材王国みやぎ」推進優良活動表彰「大賞」受賞

令和6年2月1日

仙台農業改良普及センター



県では、「食材王国みやぎ」の重要テーマである地産地消やブランド確立の分野での活動功績をたたえ、表彰を実施しています。

株式会社みらいファームやまもとでは、ワイナリーのみならず県産食材を活用したレストランや宿泊施

設の開設、イベント開催などにより、地域の交流人口の拡大に貢献されています。また、ぶどう栽培の作業などにおいては農福連携に取り組むなど、多くの若者の働く場として人材育成にも尽力されています。このような多岐にわたる活動が高く評価され、地産地消部門の大賞を受賞されました。

普及センターでは今後も地産地消に取り組むアグリビジネス経営体の支援を行ってまいります。

○農業現場の声を集約する「農業者等との意見交換会」が実施されました

令和6年2月8日

登米農業改良普及センター



登米市農業委員会では、地域農業者の現場の声を集約して農業委員会の事務に活かすほか、国への提言や市政への反映に向けて、1月17日に「農業者等との意見交換会」を実施しました。

当日は、市内の中堅・若手農業者8人が、農業委員会の農政委員会7人と意見交換を行いました。普及センターを含む関係機関は、各専門分野に関する助言を行うことで意見交換が円滑に進行するよう支援しました。

当日は、農地の集約化促進や鳥獣被害対策、担い手不足対策など、広範な課題について検討が行われ、それぞれの課題解決に向けた情報共有が進みました。

普及センターでは、これからも地域農業の課題解決や将来ビジョンの共有が促進されるよう継続して支援してまいります。

○地域計画策定に係る協議が山元町で開催されました

令和6年2月16日

亘理農業改良普及センター



令和6年2月5日、山元町において「地域計画」策定に係る協議が開催されました。

協議には、地域の担い手や農業委員、農地利用最適化推進員42人が参加しました。始めに、関係機関が

ら「地域計画」の策定に関する地域の担い手や地権者を対象にしたアンケートの調査結果、今後スケジュールなどについて説明があった後、町内を3グループに分け、地区の農業委員が進行役を務め、地域の課題などについて意見交換が行われました。

参加者からは、「担い手がないこと、排水不良などほ場条件が悪く作物が育たないこと、イノシシ被害が拡大していること」など、地域が抱える課題について意見が出されました。

山元町では「目標地図」の作成と「地域計画」の策定に向け、今後2回の協議を行う予定です。

普及センターでは、「地域計画」の策定に向けて引き続き支援してまいります。

○みやぎ食材伝道士「地域食材研修会」で当地域の特産品や生産者の紹介をしました

令和6年2月21日

亙理農業改良普及センター



令和6年2月6日（火）、山元町の山元いちご農園株式会社を会場にみやぎ食材伝道士「地域食材研修会」が開催され、料理人14人が参加しました。

みやぎ食材伝道士認定事業は、農作業実習等を通して生産者と料理人が交流を深め、料理人の方々により深く仙台地域の食材に関心や愛着を持っていただくことで、地域食材の利用拡大を推進することを目的に、平成19年度から実施しているものです。一定の現場実習を実施した料理人を認定し、料理の提供を通じて生産者の苦労や想いを消費者に伝え、消費者の地産地消に対する意識向上に寄与することを目指しています。

研修会では山元いちご農園株式会社の岩佐代表から、いちご栽培施設内で栽培技術のポイントや各品種の食味の特徴等についてお話を頂いた後、実際に「もういっこ」、「にこにこベリー」、「とちおとめ」の3品種の食べ比べも行いました。当普及センターからは亙理地域の特産品であるいちごのほか、せり、きゅうり、さつまいも、りんご、いちじくについて紹介し、食材提供に積極的に取り組む生産者も紹介しました。参加者からは、「新たに商談してみたい」との声も聞かれました。

今後とも当地域の農産物の利活用拡大に向けた取組を支援していきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○石巻地域における水田農業の将来を考えるセミナーを開催しました！

令和6年2月5日

石巻農業改良普及センター



令和6年1月30日に当普及センター主催で石巻地域における水田農業の将来を考えるセミナーを開催したところ、生産者、メーカー・関係機関の関係者ら計54人の参加がありました。

第一部「アグリテックの現状と課題について」では、東北大学大学院農学研究科の大谷教授にスマート農業の今後の展開について御講演いただきました。さらに当普及センターからは石巻管内のスマート農業の普及状況と課題について話題提供を行い、参加者は石巻地域の乾田直播栽培の普及やスマート農業活用の現状を把握し、今後の課題について意見を交わしました。

第二部では「みどりの食料システム戦略と管内での取り組みについて」と題し、東北大学大学院農学研究科の西田教授に水田へのバイオ炭施用の取り組みと輪作体系における地力の増進について御講演いただきました。当普及センターで取り組んだグリーンな栽培体系への転換サポート事業についても紹介し、参加者は田畑輪換による地力の消耗とたい肥を使った土づくりの大切さを学びました。

参加した方々にスマート農業の有用性と環境負荷軽減のためのたい肥を用いた土づくりを理解してもらうセミナーとなりました。

当普及センターは、これからもアグリテックの推進・普及による省力的な栽培支援および環境に配慮した持続可能な農業生産支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米の研修会で「グリーンな栽培体系」の実績を説明しました

令和6年2月9日

登米農業改良普及センター



去る令和6年2月5日、JAみやぎ登米主催の「農地集積担い手連絡協議会研修会」が開催され、生産者、

関係機関合わせて約 90 名が出席しました。

始めに、農地の集積に対応する技術として、東北農研センター古畑氏から水稲乾田直播栽培について講演がありました。

普及センターからは、「みどりの食料システム戦略」に対応し、プロジェクト課題で取り組んでいる「グリーンな栽培体系」について紹介しました。今年度は、非プラスチックコーティング肥料を用い、慣行より窒素を減肥した展示ほ5か所を設置、調査を行った結果、収量、品質は慣行の環境保全米と同等で、10aあたりの肥料費については、一部の展示ほを除き、慣行と同等～やや下回る結果であったことを紹介しました。

「グリーンな栽培体系」については、初めて取り組みを知った生産者も多いようでしたが、今回の研修で一定の周知ができたのではないかと感じました。

普及センターでは、今後もグリーンな栽培体系の検証及び情報の発信を行ってまいります。

○温暖化に適応した米・大豆づくり研修会を開催しました！

令和6年2月26日

石巻農業改良普及センター



令和5年の水稲、大豆の作柄が記録的な高温により大きく影響を受けたことから、令和6年2月20日に当普及センター主催で「温暖化に適応した米・大豆づくり研修会」を開催しました。

研修会では古川農業試験場の研究員から令和5年の収量や品質の低下要因と対策について、当普及センターから石巻地域における水稲と大豆の作柄について説明しました。

水稲の講演において、昨年の基部未熟粒の多発生は登熟期後期の高温が要因であることや、登熟期まで葉色（稲体窒素）を維持することがその発生の抑制につながることも、また高温耐性品種の育種状況について説明がありました。

大豆の講演では、播種後の降雨により、根張りが弱くなったため、生育後半の高温乾燥の影響を大きく受けたことや、大豆の根張りを良くする対策として、碎土や鎮圧、有効土層の確保について説明がありました。

研修会には生産者、関係機関の方々約65人が参加し、これからの水稲、大豆栽培における高温対策に熱心に耳を傾けていました。

当普及センターは、これからも気象変動に適応した作物の栽培支援を行ってまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亶理>
〒989-2301
亶理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

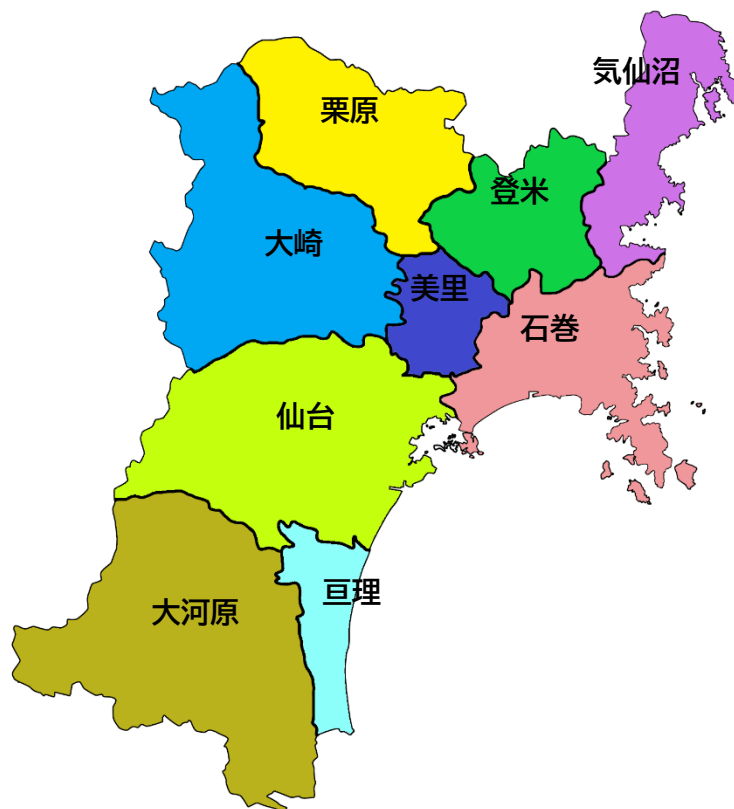
<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.205

発行日:2024年3月22日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp